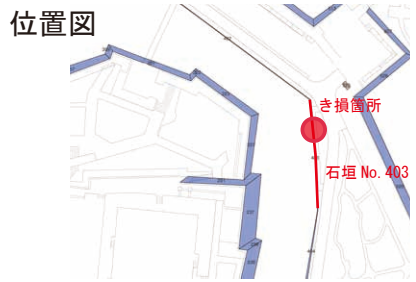


第 6 章 表15 短期整備計画工程表

整備目的				整備内容	地区区分	～R4年度(2022)	R5年度(2023)	R6年度(2024)	R7年度(2025)	R8年度(2026)	R9年度(2027)	進捗状況・所見 (R6年度末)	課題点等	今後予定・所見 (R7以降)
(1)	大阪城特有の価値・魅力を高める整備	1) 特別史跡大坂城跡の本質的価値に関連する整備	i) 豊臣期石垣公開に関連する	① 豊臣期石垣公開施設整備	本丸地区	工事	工事	工事	公開 報告書作成			・令和7年4月 大阪城豊臣石垣館をオープン	・豊臣石垣を適切に保存管理していく	・豊臣石垣公開事業の事業報告書を作成する。(R7補助事業) ・豊臣石垣の保存管理について検討する「豊臣石垣保存管理検討会議」を立ち上げ予定
						発掘調査報告書作成	発掘調査報告書作成							
				② 金蔵に関連する徳川期遺構の整備	本丸地区	設計		工事	公開 報告書作成			令和7年3月 徳川期遺構復元及び雁木石垣修復工事の竣工	―	―
				③ 馬印櫓、月見櫓間の雁木の整備	本丸地区	設計		工事	公開 報告書作成			令和7年3月 徳川期遺構復元及び雁木石垣修復工事の竣工	―	―
				④ 金蔵の視認性の改善	本丸地区	工事		工事	公開 報告書作成			令和6年11月 豊臣期石垣公開施設整備工事の竣工	―	―
		ii) 石垣等の保存修復を含む)	⑤ 徳川期石垣の現況調査	公園地区以外	測量調査	測量調査	測量調査	測量調査	測量調査	石垣カルテ等報告書作成	石垣カルテ等報告書作成	本計画の工程どおり		石垣修復検討会議の中でカルテの内容精査を行い、石垣カルテの作成を進めていく。
					内堀／南外堀北面／西外堀東面／北外堀南面	東外堀西面／南外堀南面	南外堀南面／西外堀西面	北外堀北面／東外堀東面						
			⑯ 内堀北東部水葺き石垣の修復	内堀地区					方針確認	調査・設計	工事	R7.5に当該石垣の一部の落下を確認したことから、優先的に整備する必要が生じた。R2年度3次元データから変位がほぼないとみられるポイントが多いことから石垣そのものが沈下しているという状況ではないと考えられる。	落下した石材について、車両が近づけないことから、現地に残置。 内堀の水葺き石垣は間詰の抜けが目立ち、今後同様のゆるみによる影響が生じる可能性がある。	石垣修復検討会議の中で補修の内容精査を行い、修復を進めていく。
			⑥ 一番櫓南雁木の修復	二の丸南地区						方針確認	設計			内堀北東部の石垣（上記⑱）の修復を優先して進めるため、R9以降に検討を実施する。
											検討			
			⑦ 玉造門西雁木の修復	二の丸南地区							検討			内堀北東部の石垣（上記⑱）の修復を優先して進めるため、R9以降に検討を実施する。
		iii) の歴史的修建造物	⑧ 重要文化財等の消火設備の改修	本丸地区・二の丸南地区・二の丸北地区・二の丸西地区		工事						完了		
		2) 近代以降の歴史資産の保存活用	⑨ 旧第四師団司令部庁舎の改修	本丸地区			設計	工事				計画通り		
(2)	来訪整備が安全かつ快適に利用できる	1) 安全性の向上	⑩ 通信環境の整備	本丸地区			検討	検討	検討・整備			通信環境改善の対象エリア、設備の設置場所、仕様、景観影響、遺構保全について、有識者から意見聴取を行いながら文化財保護課と協議を継続。	・通信環境改善の対象エリアや設備機器の規模を見直し、既存建物を活かした設備設置等、より史跡景観配慮した整備内容を検討していく。	・通信環境改善の対象エリアや設備機器の規模を見直し、既存建物を活かした設備設置等、より史跡景観配慮した整備内容を検討していく。 ・早期の整備完了にむけて協議を完了させ、文化庁への現状変更申請許可と工事占用許可が得れるよう取り組む。
		2) 快適性の向上	⑪ トイレの改修	全域	においの森／梅林／少年野球場	極楽橋下／大手前売店横／森ノ宮／弓道場横	大手前／もみじ広場／太陽の広場					完了		
					工事	工事	工事							
		3) 夜間景観の整備	⑫ 桃園・梅林の園路整備	外堀外縁北東地区・二の丸東地区		工事	工事					完了		
(3)	効果的な情報発信	⑬ 大阪城ホール前の照明設備改修	公園地区		工事							完了		
		⑭ 極楽橋ライトアップ	内堀地区			検討	検討	検討				・整備内容、仕様について検討中。	・相当の整備コストが見込まれるため、規模や仕様など見直しが必要	・課題を踏まえ整備内容、仕様について検討を続ける
		⑮ 大阪城の見どころ解説資料の作成	全域				検討・作成・公開					・大阪城公園のホームページに園内の見どころ情報や指定文化財をめぐるルートについて解説とともに作成し掲載公開を実施。 ・「大阪城ゆかりの地マップ」として、①大坂の陣編、②幕末・維新編、③大阪城の石垣編の3種を作成し、大坂城とその周辺のゆかりの場所やその歴史について解説したリーフレットを作成し発行。（HPにも掲載） ・大阪城 豊臣石垣館の開館に合わせ、案内リーフレットを作成し発行。（HPにも掲載）		
		⑯ 特別史跡標識・説明板の設置	外堀外縁南西地区			検討	検討	検討	設計			・	・史跡の標識、説明版の仕様、設置場所、整備スケジュール、各部署の役割分担の検討	・他史跡における整備事例の調査を進める。 ・整備イメージ案を作成し整備内容を推進会議で検討していく。
		⑰ 史跡等解説における多言語活用・デジタル技術の活用	全域	多言語対応解説板設置（R1年度）	解説動画・映像コンテンツ作成	シアタールーム映像機器改修						・園内の史跡解説板に、多言語に対応する二次元コードを掲出。関心が高い重要文化財建造物の解説板に二次元コードを掲出し、動画による解説サービスを提供。（史跡スポット20か所、その他スポット18か所） ・大阪城天守閣所蔵品の魅力や大阪城の歴史を伝える高精細の映像コンテンツを作成し映像設備の改修を実施。		
		⑱ 大手口における園内情報の発信	外堀外縁南西地区			検討	検討・整備	ニーズ調査	ニーズ調査			・観光案内所の設置場所、仕様等について検討をすすめており、文化財保護課と協議を継続している。	・建築関連、設備関連工事にかかる協議と確認 ・整備場所への電源引込方法を検討	・令和7年度中の整備完了とサービス開始をめざし継続的に取り組む。

特別史跡 大坂城跡 立会記録

1/3

案件名	内堀石垣 (No. 403) き損状況確認	位置図 
地 区	内堀	
場 所	内堀北東部水敲き石垣 石垣 No. 403	
立会日	令和7年(2025)6月6日(金) 午前	

記 録

【経過】

①き損の発見

令和7年5月21日(水) 午前10時

御座船の運航中に船の担当者が石垣石材が堀内に落下していることを確認した。

②同日中に関係者現地確認(写真1)

内堀北東部の水敲き石垣(石垣 No. 403)の笠石1石(長さ約2m)が堀内に落下していることを確認した。正確な落下日時は不明であるが、前日も御座船が運航されていたことなどから、発見された5月21日頃に発生したものと推測される。

石材の落下に伴い、石材背面の転落防止柵基礎との間を埋めたモルタルも破損した。

③文化庁担当調査官に報告・き損届を提出

④令和7年5月29日(木)文化財保護課堀側よりき損箇所確認

⑤令和7年6月6日(金)午前 き損状況の詳細確認

(建設局公園緑化部公園課・大阪城公園事務所・教育委員会文化財保護課)

写真1 き損状況(6月21日)

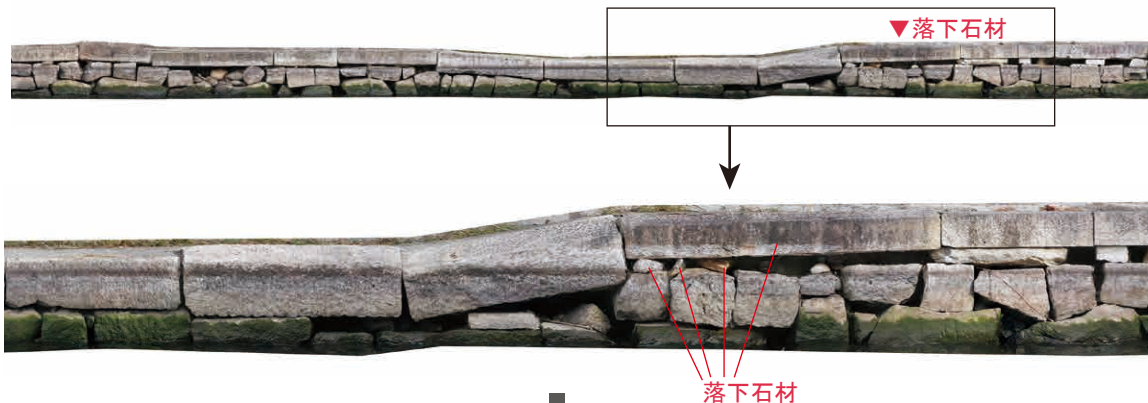


記録担当者(教育委員会文化財保護課 櫻田)

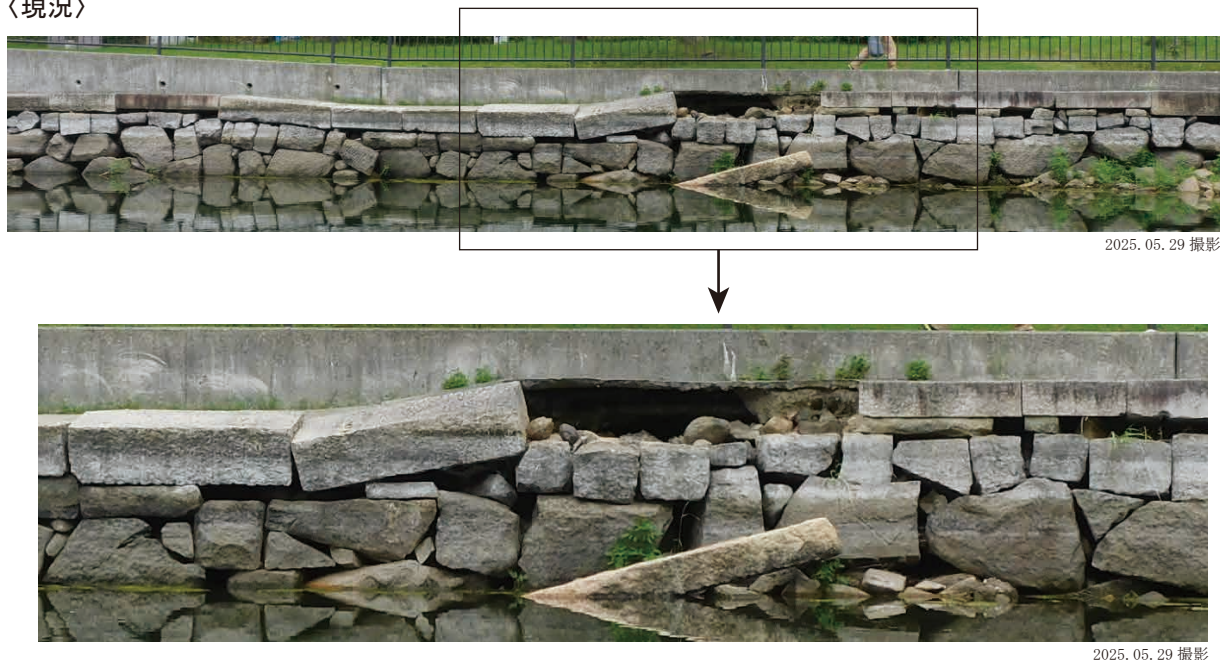
記 録

【R2 年度取得データとの比較】

〈令和 2 年度石垣計測時〉



〈現況〉



- ・笠石とその下 1 段目は近代以降の補修によるもの（補修時期は不明）。今回落下した石材は補修によるもの。
- ・笠石 1 石に加え、その下にあった小石 3 石が落下していることが確認できる。
- ・R2 年度計測時は現状よりも内堀内の水位が高かったため、2 段目以下の記録は取得できていない。

記 録

【R7年6月6日現地確認記録】

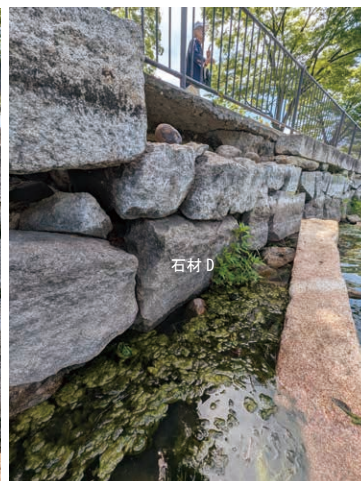
- ・R2年度計測時のデータでは、き損箇所周辺で天端が下がっている状況が確認できたため、付近が沈下している可能性も想定し、複数箇所で石材の標高値の変化の有無について確認を行った。
→今回の計測ポイントとR2年度3次元データの確認ポイントの位置が完全には一致しないため、正確な変位状況は不明であるが、変位がほぼないとみられるポイントが多いことから石垣そのものが沈下しているという状況ではないものと考えられる。
- ・今回の落下要因について
落下石材下の石材BでR2年度との数値差がやや大きく、石材が動いた可能性がある。
現地確認では、石材B下の石材Dについて、上部がやや前傾している状況がみられた。Dの周囲は間詰の抜けが目立ち、石材の控えも40cmほどと短いことから、緩みが生じて前方向に傾いたことが想定される。Dの落石前の記録がないことから、明確ではないが、観察状況等から、今回の石材落下の要因は、石材Dが緩みにより動いたことによると考えられる。
- ・その他
笠石と転落防止柵基礎との間にモルタルが施工されている。今回落下した石材の背面部分では、モルタル施工時に入れられた土の大半が流出している状況が確認でき、周囲のモルタル下部も空洞化している可能性が高い。
- ・今後の対応
 - ・石材Dに傾きがみられることから、Dとその上のA・B・Cについては、今後、注意が必要。
 - ・落下した石材については、ユニックが近づけないことから、現地に残置。
 - ・内堀の水敲き石垣は間詰の抜けが目立つことから、今後同様のゆるみによる影響が生じる可能性があり、注意するとともに対応の要否について検討が必要。



R2年度計測時の標高 (m) (R2年度取得の点群データより確認)

R7年6月6日調査時の標高 (m) (R2年度計測時に設けた基準点 4-27 (TP+10.689m) をもとに確認)

※数値差は計測ポイントが完全に同位置ではないため、計測箇所の違いによる誤差を含む



■事業概要

- 大阪城公園もと博物館は、昭和6年に市民の寄付により建築され、陸軍第四師団司令部庁舎、大阪府警本部などとして使用され、昭和35年から平成13年まで大阪市立博物館として多くの市民に親しまれてきた。
- 平成29年に経済戦略局から建設局に移管され、現在は指定管理者により複合施設（MIRAIZA OSAKA-JO）として運営されている。
- 令和3年に屋上笠木の一部が崩落し、応急措置は行っているものの、建築後93年を経過して老朽化しており、このままでは人的被害など重大な事故を招くおそれがあるため、改修工事を実施。

■現地の状況



大阪城 石垣ライトアップ

照明計画案



2023/12/27



ホテルニューオータニ大阪
18F スカイラウンジ「フォーシーズンズ」からのビュー



天守閣へと続く南北の石垣をライトアップし、訪れる人々を堂々と輝く天守閣へと導く

2023/12/27



天守閣を正面に、大手門や桜門とは違った水景との美しい表情を持つ極楽橋からのビュー
お堀の石垣と橋のライトアップにより、水面にきらめく光の輝きが夜間の来場者を優しくお出迎えします。
ライトアップによりもたらされる明るさは、歩行及び周辺への安心安全の灯として寄与します。

極楽橋方面からのビュー / 例 1

橋の欄干と橋桁をライトアップする
リズムカルな光とグラデーションのふたつの光の
水面への映り込みを楽しむ

対岸から石垣を照射し奥へと導く光の階層をつくる

極楽橋方面からのビュー / 例 2

橋の全長をライン照明で光らせる
欄干の造形を夜間浮かび上げらせ
水面にきらめく美しい光のラインを楽しむ

対岸から石垣を照射し奥へと導く光の階層をつくる



皇居外苑・石井幹子デザイン事務所



皇居外苑・石井幹子デザイン事務所



大分城址公園・AT/CKJ

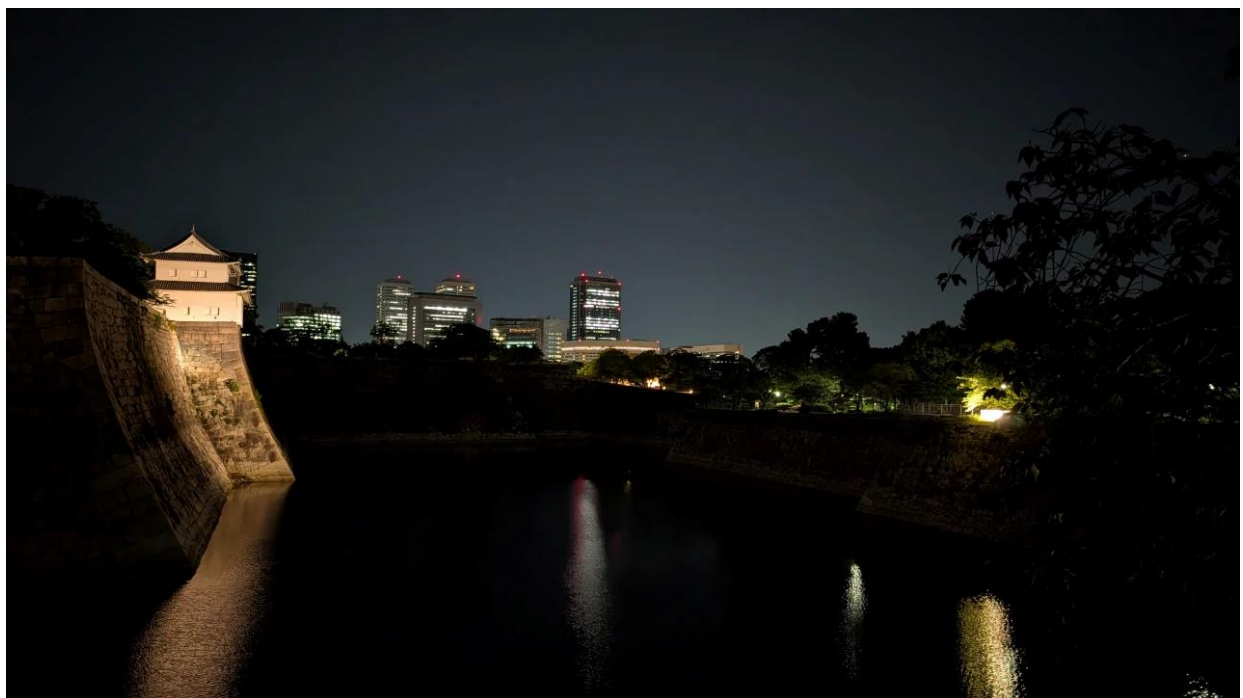


大分城址公園・AT/CKJ

極楽橋（現状）



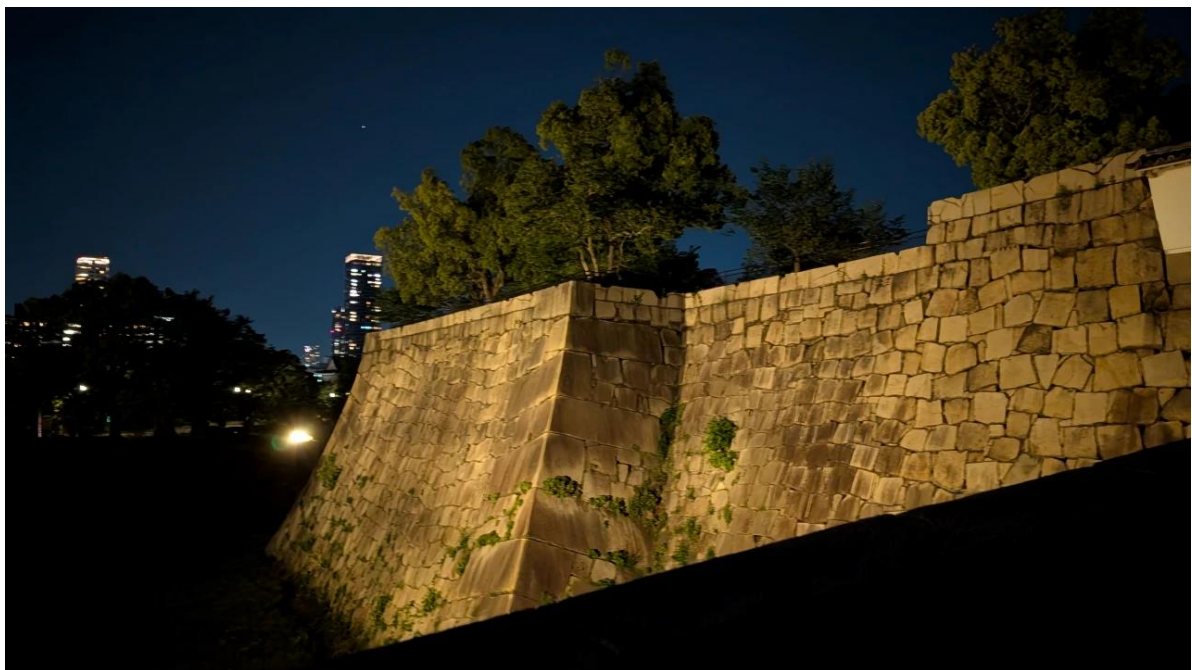
一番櫓周辺ライトアップ



桜門周辺ライトアップ



桜門西側石垣ライトアップ



大手門周辺ライトアップ

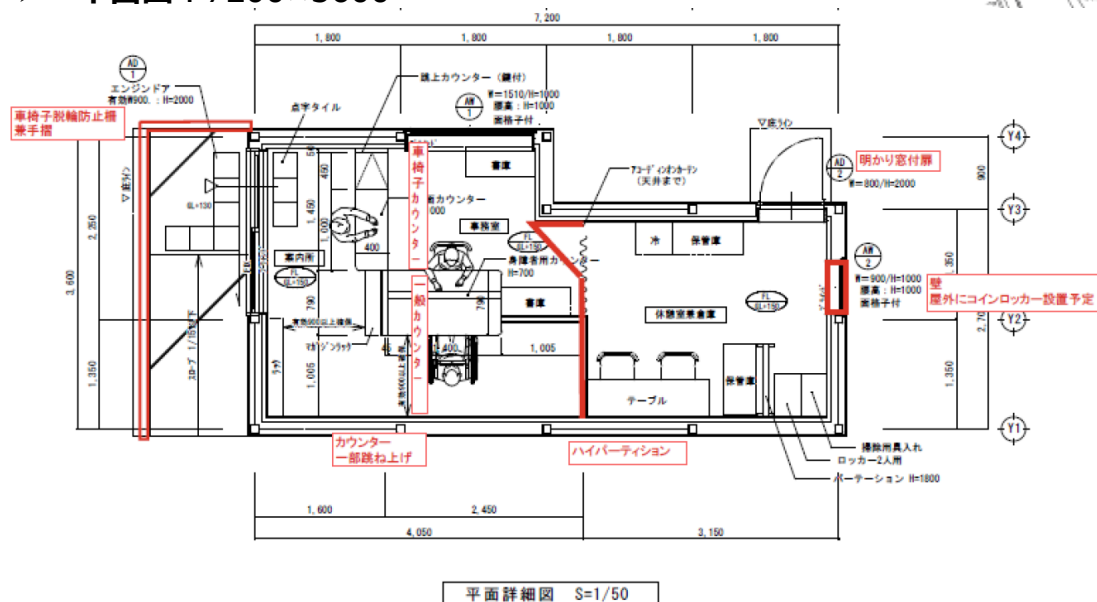


大手門周辺ライトアップ



⑮ 大手口における園内情報発信【観光案内所の設置】

- **趣旨：** 国内及び訪日外国人観光客の大幅な増加に伴い、天守閣への行き方や園内施設等の案内を必要とされる方は今後更に増加すると見込んでいます。関西を代表とする観光地として、来園者に対し丁寧でわかりやすい案内対応により大坂城跡の魅力を伝えるとともに、来訪者ニーズの調査と把握を進め、園内施策の活性化につなげるものです。
- **目的：**
 - ・ 来園者満足度の向上
 - ・ 来園者ニーズの把握調査
 - ・ 園内施策の活性化
- **機能：** インフォメーション：2名体制
カウンター、控室、パンフレット、リーフレットラック等
※光回線の検討
- **想定設置時期：** 2026年～2028年（仮設）
※本設とする場合は改めて検討を行う
- **平面図：** 7200×3600

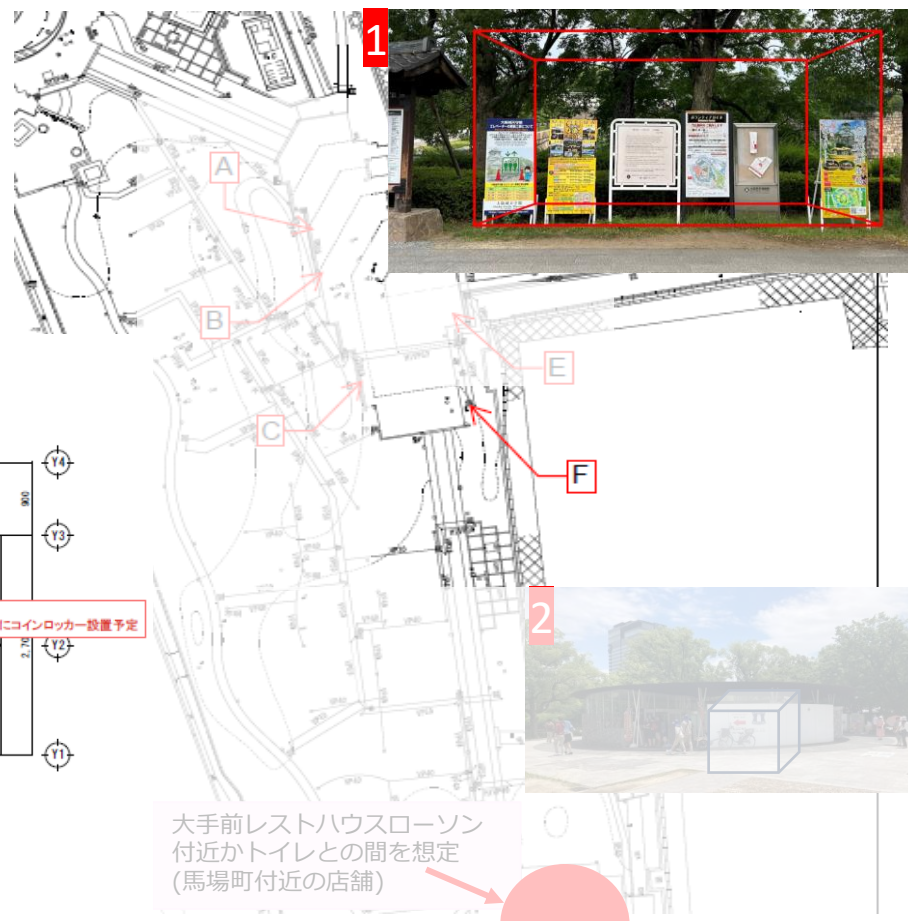


- **候補場所：** 観光客利用の多い下記付近とします。

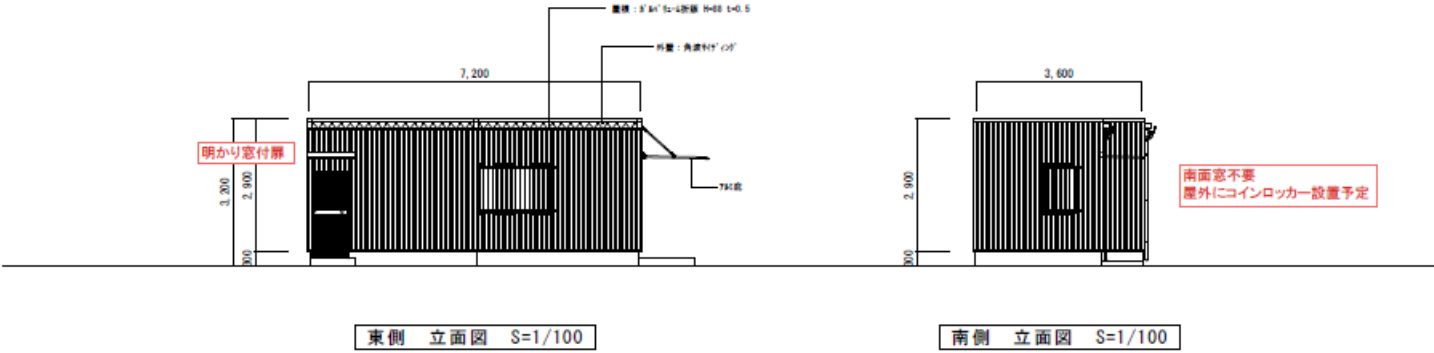
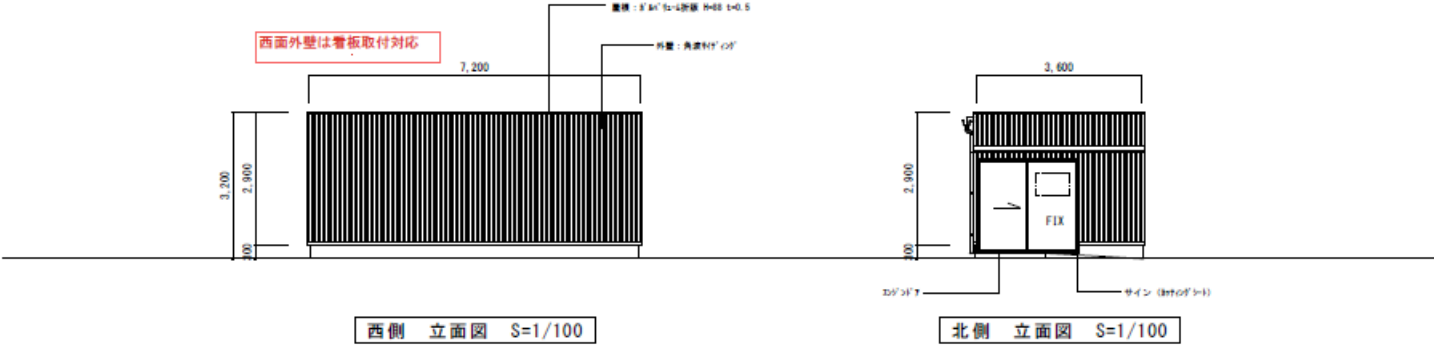
1: 大手門付近 「F」

2: 大手前レストハウスのローソン
とトイレ付近

→文化財保護課と協議済



大阪城公園内における観光案内所の設置について【立面】



⑱ 大手口における園内情報発信【観光案内所の設置】

